

日時：2015年6月13日（土）15：00～17：30

場所：東洋大学2号館 会議室 C

出席者：浮谷秀一理事長、中村真副理事長、松田浩平、山崎晴美

事務局：加藤司（事務局長）、太幡直也

委任：二宮克美、渡邊芳之、松田英子、小塩真司、家島明彦

日本パーソナリティ心理学会第115回常任理事会議事録

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤事務局長代理）

1. 機関誌編集委員会の開催状況

1) 平成26年3月25日から3月30日、「パーソナリティ研究」第24巻第1号の掲載論文を決定した。

2. 「パーソナリティ研究」の編集発行状況

1) 「パーソナリティ研究」第23巻第3号

第23巻第3号は予定通り3月末までに会員宛発送された。掲載論文数は8本（依頼論文1, 原著5, ショートレポート2）、ページ数は82頁。

2) 「パーソナリティ研究」第24巻第1号の編集状況

第24巻第1号は以下の9本（原著7, ショートレポート2）を掲載、現在著者校正中である。予定通り7月末の発行を予定。ページ数は93頁。

論文番号	投稿番号	種別	題目	筆頭者
24-1-1	A-355	原著	社交不安症状と対人的自己効力感が大学生のひきこもり親和性に与える影響	新井 博達
24-1-2	A-365	原著	児童期における仲間への信頼信念と学校での孤独感との関連:教師や親への信頼信念との交互作用の観点から	酒井 厚
24-1-3	A-350	原著	日本語版Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み	田村紋女
24-1-4	A-371	原著	大学生におけるタイプA行動様式および首尾一貫感覚(SOC)が抑うつ傾向に与える効果の検討	嘉瀬 貴祥
24-1-5	A-377	原著	日本人における自尊感情の性差に関するメタ分析	岡田涼
24-1-6	A-372	原著	日本語版Mindful Attention Awareness Scaleの開発および項目反応理論による検討	藤野 正寛
24-1-7	A-341	原著	Leuven Adaptation of the Rumination on Sadness Scale(LARSS)日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討	松本 昇
24-1-8	S-283	ショートレポート	人狼ゲーム経験による嘘の手がかり信念の差異—大学生, 人狼ゲーム愛好者, 人狼ゲーム舞台役者の比較—	丹野宏昭
24-1-9	S-279	ショートレポート	比較的軽度なストレスと解離性体験の関連—ポジティブな対人認知の影響について—	池田 龍也

3) 「パーソナリティ研究」第24巻第2号以降の編集状況について

6月5日現在で採択されている論文は3本、審査中の論文は39本、うち7本が修正採択修正中である。7月中に掲載論文を決定して予定通りの11月発行を目指す。

3. 投稿状況、審査状況について

1) 投稿状況について

昨年6月から今年5月までの投稿状況は下表の通りである。

年	月	原著	ショートレポート	合計	備考
2014	6	5	1	6	
	7	3	1	4	
	8	4	3	7	
	9	3	3	6	
	10	0	0	0	
	11	3	3	6	
	12	0	2	2	
2015	1	2	2	4	
	2	2	5	7	
	3	3	5	8	
	4	1	4	5	
	5	1	2	3	
合計		27	31	58	

2006年度からの投稿数の推移を下表に示す。

年	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2006	36	8	10	0	54
2007	40	10	21	1	72
2008	24	11	25	3	63
2009	31	8	26	0	65
2010	35	13	26	0	74
2011	29	5	18	0	52
2012	20	12	20	0	52
2013	32	2	30	0	64
2014	32	0	29	0	61

2) 審査状況について

昨年6月から今年5月までの審査状況は以下のとおりである。

年月	採択	再審査	不採択	投稿取下	備考
2014/6	0	17	4	0	
7	1	4	2	1	
8	2	8	2	1	
9	3	6	2	4	
10	1	6	2	0	
11	3	10	2	1	
12	2	4	1	0	
2015/1	3	7	3	0	
2	2	4	2	0	
3	1	6	3	1	
4	3	9	2	0	
5	0	7	0	0	
合計	21	88	25	8	

2008年度からの審査状況は下表のとおりである。

年	採択	再審査	不採択	投稿取下
2008	35	105	15	9
2009	31	95	20	6
2010	31	80	16	7
2011	30	112	17	10
2012	36	87	22	7
2013	28	88	16	5
2014	22	82	25	8

2 経常的研究交流委員会（加藤事務局長代理）

1. 事業計画

（1）大会開催時以外の時期のシンポジウムについて

日時：2015年3月15日（日）14:30～17:00

場所：東洋大学白山キャンパス 1310 教室

題目：がまんの科学：行動遺伝学と心理学から衝動を解き明かす

司会・担当：原田知佳（名城大学）・小林麻衣（東洋大学）

話題提供：高橋雄介（京都大学）・森口佑介（上越教育大学）・及川昌典（同志社大学）

指定討論：長谷川寿一（東京大学）

（2）第24回大会（北海道教育大学札幌分校）でのシンポジウムについて

①「いじめの心理学－パーソナリティ心理学はいじめ問題にどうアプローチするか－」

司会：松下健（北陸学院大学）

話題提供者：澤田匡人（宇都宮大学）、荒木剛（東北大学）

指定討論者：中村玲子（帝京平成大学）

②「これからのパーソナリティ心理学－学会24年を振り返り、今後を展望する－」

司会進行役：二宮克美（愛知学院大学）、本田周二（島根大学）

（3）シンポジウムの企画（案）

「アドラー心理学からの提言：あなたのライフスタイルをどう活かすか」

話題提供者（案）：向後千春（早稲田大学）

以上を予定している。

2. 第24回大会からの新委員の候補について

後藤崇志（京都大学）、原田新（岡山大学）、松尾由美（関東学園短大）、牟田季純（早稲田大学大学院）、渡辺伸子（筑波大学大学院）

*すべての委員が承認された。

3. その他（報告事項など）

（1）第24回大会時に、原田委員欠席のため会計担当を年度で交代する。4月から二村委員に会計を担当していただき、引き継ぎすることを決めた。

（2）次回委員会は、新旧合同の委員会とし、大会開催時の2日目（8月22日の昼休み）を予定。委員長交代見込みで、詳細は日が近くになってから連絡。

4. 委員会構成について

委員長：二宮克美（愛知学院大学）

*24 回大会まで：永井智（立正大学）、畑野快（大阪市立大学）、原田知佳（名城大学）、松下健（北陸学院大学）

*25 回大会まで：石井国雄（清泉女学院大学）、柄本健太郎（東京学芸大学）、小林麻衣（東洋大学）、本田周二（島根大学）、山本ちか（名古屋文理大学短大部）

*26 回大会まで：鈴木公啓（東京未来大学）、中山真（鈴鹿短期大学）、服部陽介（京都学園大学）、二村郁美（名古屋大学）、堀内由樹子（お茶の水女子大学）

3 広報委員会（加藤事務局長代理）

（1）YPP2015

企画を進めている。

参加予定者 20 名

日程：2015 年 8 月 20 日（木）13:20～16:30

場所：北海道教育大学札幌駅前サテライト

（2）大会企画

日程：2015 年 8 月 21 日（金）14:00～16:00

場所：北海道教育大学 講義棟 3 階

題目：心理学研究におけるマルチメソッド・アプローチ

司会者：大谷和大（大阪大学）

話題提供者：鈴木雅之（国立情報学研究所）、長谷川晃（東海学院大学）

指定討論者：山田剛史先生（岡山大学）、佐々木淳（大阪大学）

4 国際交流委員会（加藤事務局長代理）

題目：Helpful Tips for Writing and Presenting Your Research in English

講演者：Emmanuel Manalo（京都大学）

司会：田中麻未（千葉大学）

委員体制

田島祥（東海大学）、高野慶輔（ルーヴレン大学）、守谷順（関西大学）、田中麻未（千葉大学）

*承認された

5 学会活性化委員会（加藤事務局長代理）

大会優秀賞の日程が報告された。

6 各種電子化検討小委員会（松田委員）

現状が報告された。

7 学会 20 年史編纂委員会（必要に応じて）

6 月 14 日に会議を行う。現在最終段階に入っている。

8 選挙管理委員会（中村委員長）

5 月 30 日に開票が行われ、順調に進んでいることが報告された。

III 日本心理学諸学会連合

1 日本心理学諸学会連合について（浮谷理事長）

6 月 14 日に会議を行う予定である。次回常任理事会で詳細を報告する。

2 心理学検定について（浮谷理事長）

8 月 23 日に検定試験を実施することが報告された。

IV 事務局報告（加藤事務局長）

理事会、総会時に関する事務に関する打ち合わせをした。

V 第 24 回大会準備状況について

報告なし。

VI その他

特になし。

審議事項

I 2015 年度予算、2014 年度決算の件（山崎財務担当常任理事）

2015 年度予算案、2014 年度決算（案）が提示され、議論された。

II 第 76 回、第 114 回常任理事会議事録に関する件（加藤事務局）

第 76 回、第 114 回常任理事会議事録が承認された。

Ⅲ 新入会員・会費未納による退会者に関する件（加藤事務局）

1 新入会希望者の件

ML 承認済み

以上、51名

追認された

2 退会希望者

別紙のとおり、30名の退会者が承認された。

以上、以上の承認を受けて、6月12日現在、会員総数は940名である（一般会員642名、院生会員280名、学生会員7名、名誉会員10名、賛助会員1名）。

3 会費未納者

別紙の36名の退会が承認された。

Ⅳ 国際文献社との契約に関する件（加藤事務局）

契約が更新されることが承認された。

主たる変更点は、会員が900名を超えたことにより、「1000人まで」での計算になり、原簿管理（年間）が150,000円。

本契約に定めのない作業費に関しては、事前に事務局長に連絡するという条項を付帯することを前提として、承認された。しかし、この件に関しては、その内容に関して監視していくことが決定した。

Ⅴ その他

1 常任理事会の開催について

大会前日、理事会の前に常任理事会を開催し、原則常任理事会を年間5回とすることが理事長より提案され、承認された。